第３４回　熊谷市地域公共交通会議　次第

令和５年１月１３日（金）午後１時から
熊谷市役所６階　６０３会議室

１　開　会

２　会長あいさつ

３　議　題

（１）　地域内フィーダー系統（ほたる号）補助の評価（案）について

（２）　熊谷市地域公共交通計画（案）について

（３）　ゆうゆうバス無料乗車デーの実施について

４　その他

５　閉　会

（1） 地域内フィーダー系統（ほたる号）補助の評価（案）について

令和4年度　地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和5年1月13日

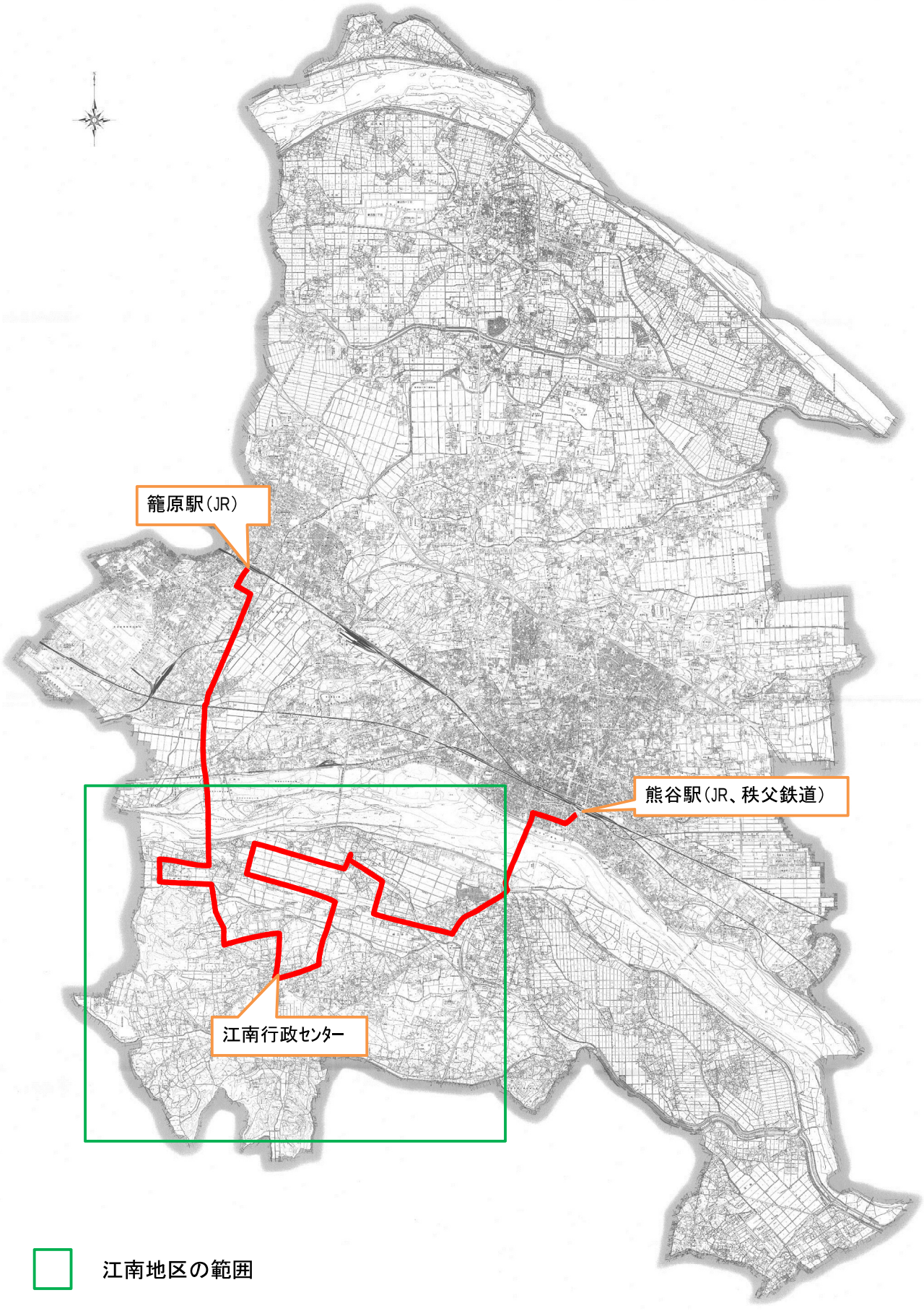
協議会名： 熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

A：事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された
B：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった
C：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

①運行事業者	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
国際十王交通株式会社	運行系統名： 江南地区路線「ほたる号」 【概要】一般乗合旅客自動車運送事業 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行時間帯】6：18～19：25 【運行本数】1日5．5往復 【運行ルート】江南行政ｾﾝﾀｰ～熊谷駅南口～江南行政ｾﾝﾀｰ～籠原駅南口～江南行政ｾﾝﾀｰ 【運行車両】ノンステップバス1台※国庫補助金「車両減価償却費等」あり 【運賃】（1）1回の運賃　100円（2）1日乗車券　300円（3）回数券（11枚綴り）1,000円（4）運賃の免除について　未就学児、障害者手帳（3種）所持者及びその介助・付添人1人、運転免許自主返納者（無料乗車証か運転経歴証明書の提示）	・バスマップを増刷、配布し、周知に努めた。 ・バスロケーションシステムについて、検索操作を簡素化し、利便性の向上を図った。	A	感染症の影響による収入の減少や燃料費の高騰が重なったこともあり、収支の悪化が懸念される中、感染症対策を行い、計画どおりに事業を実施した。	C	【年間利用者数】 （R3.10.1～R4.9.30） 《目標》 25,529人 《実績》 24,595人 前年より60人増加したが、目標値の96%だった。コロナ禍前の年間利用者3万人に戻る気配はない。	【既に実施した利用促進策】 ・「江南地区路線」の愛称、イラストを公募し、新規車両の納車に合わせ、ラッピングを施工した。 ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めた。 【今後の改善点】 ・近隣を運行している路線バスも利用者が減少したままの状態となっており、利用促進を図ることや、路線バス等と乗り継ぎポイントを設置するなど、既存の公共交通を補完、連携しながら地域の利便性を高めるなどの検討を行い、互いの維持に努める。

熊谷市全図と江南地区予定ルート



江南地区の範囲

江南地区路線「ほたる号」ルート

議題（３）　ゆうゆうバス無料乗車デーの実施について

市内循環バス「ゆうゆうバス」については、事業開始から20年以上経過し、市民の認知度は高いと思われるが、人口減少やコロナ禍の影響で利用者が大幅に減少したままの厳しい状況が続いており、利用者増加を図るためのＰＲが必要です。

そこで、新たな利用者の獲得など利用促進を図るとともに、その利便性を認識していただくことを目的として、下記のとおり乗車運賃を無料として運行しようとするものです。

また、令和４年度に策定予定の熊谷市地域公共交通計画の中でも公共交通の利用促進イベントについて掲載し、令和５年度から無料乗車イベントを実施できると思われることから発案したものです。

記

１　実施日

⑴令和５年４月９日(日)埼玉県議会議員選挙投票日(H31.4当日投票者57,325人)

⑵令和５年４月２３日(日)熊谷市議会議員選挙投票日(H27.4当日投票者55,552人)

統一地方選の投票日は、市内で過ごす市民が多いと思われることと、投票へ行った際に「ついで乗車」してもらうことを期待し、買い物やレジャーなどの外出機会を創出し、市内経済活性化を図ります。

２　対象となる路線

ゆうゆうバス８路線１０系統

３　期待できるメリット

⑴ＰＲ効果による今後の利用者の増加

⑵外出機会の創出

４　想定利用者数について

過去５年間の利用者数の推移から、500人から600人を見込んでいます。

令和３年度	平均556人/日（年間201,422人	※日曜日平均361人）
令和２年度	483人/日（	175,005人）
令和元年度	658人/日（	238,203人）
平成３０年度	610人/日（	221,111人）
平成２９年度	586人/日（	212,172人）

５　実施後

結果の検証を行い、効果を見ながら次回の実施を検討